



日本プライマリ・ケア連合学会  
近畿ブロック支部



発行人：鈴木 富雄  
事務局 〒550-0001 大阪府大阪市西区  
土佐堀1-4-8 日栄ビル 703A  
あゆみコーポレーション内  
Tel.06-6441-4918 Fax.06-6441-2055  
E-mail [ipca@ayoume.jp](mailto:ipca@ayoume.jp)  
HP <http://www.primary-care.or.jp/primarycare-kinki/index.html>

ニュースレター No.50 (2025. 12)

## 特集1：近畿の話題（今回は滋賀からです）

### 復活、ながはま健康フェスティバル！

町のお医者さんと医療系学生の健康相談会の取り組み報告

滋賀県支部 副支部長 松井善典

“人と人とのつながること、人が人を支えること。  
これがふつうの相談の根源で響いている(東畠,2023)”

2013年に初参加したながはま健康フェスティバルでは多くの来場者が相談ブースに訪れていた。近所の井戸端会議でもなく、診察室でもない、健康をテーマにしたお祭りの相談ブースの話題は曖昧模糊で境界不明瞭なものに聞こえた。簡単に医学知識で絡めどることもできれば、声にならない人生を聞くような患者中心の医療の実践としても応用レベルのものまであった。

これは医学教育のフィールドになる。



そう思って翌年の2014年から「まちのお医者さんと医学生の健康相談会」と称して、滋賀県を中心に指導医・医学生を集めて実施をつづけていた。毎年多くの指導医と医学生、そしてまた看護学生や薬学生など医療系の学生さんが集うようになり、「まちのお医者さんと医療系学生の健康相談会」として2019年まで毎年つづけていた。

そしてコロナである。

2025年、ようやくながはま健康フェスティバルが復活した。合わせて慌てて「まちのお医者さんと医療系学生の健康相談会」を企画した。滋賀県支部の指導医5名、専攻医1名が相談のプリセプターとして控え、実際の相談は滋賀、京都、愛知、大阪などから集った15名の医療系学生が約50名前後の相談に乗ってくれた。隣の血糖測定ブースで驚いてくる方、普段の不安を訥々と語る方、真摯に耳を傾ける学生、丁寧に話をひろう学生、そこにはプライマリ・ケアの原点とも言える「普段の普通の相談にのる」という姿が繰り広げられていた。

相談に乗るとは、医学的な回答をすることではなく、その人に応答することである。

これを前日の準備 WS で繰り返し実践し省察した。翌日の準備となる経験学習として何度も相談に乗って、その答えを探すのではなく、応答を深めるワークを行った。最後に参加した学生達の「相談とは」というそれぞれの応答から導かれた相談会の後の振り返りでまとめられたそれぞれの言葉を紹介したい。

相談者の思考・感情の行き先を相談される側に一部預ける行為

相談とは、『相手の視点を変えるお手伝いをすること』だと思いました。

相談とは、その患者さんの答えを引き出せるように支援していくもの。またはしっかりと話を聞くこと。

相談者の中や周りにある選択肢と一緒に模索し、見つける手助けをすること

「相手のことを知り、相手が持っている答えと一緒に探して見つけるための過程」

「相談」とは、お互いがありのままで向き合い、相談者の中にある答えと一緒に見つけていく共同作業です。

自分にはない視点、考え方を聞くことで自分の中にある答えに気がつくとする行動。

自分が思うよりも相談とはもっと自由なものなのではないかと考えるようになった。日常生活を振り返るとどこからが相談でどこからが日常会話なのかあやふやな部分があると感じたし、本当は良い相談も悪い相談もないのかなと思った。

相談者と一緒に、思考を表現する言葉を探すこと。

相手の背景を深く理解することで感情を共有し、相談者が答えを見つけてもらう支援をすること。

相談とは… 相手の心の中にある答えと一緒に探すこと！

相手とともに、(相手の中にある)言葉を見つける共同行為。ただし、見つけなければならいないわけではない。見つけていく(ふと見つかる場合もある)プロセスを含めた取り組み。

最後に、前日 WS をサポートして下さった JPCA 滋賀県支部の嶋林さん、そして当日健康フェスティバルを支援してくださった湖北医師会並びに滋賀県医療人育成協力機構の事務局のみなさんに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



## 特集2： 第17回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会について

鈴木 富雄（大阪医科大学病院 総合診療科）

2026年5月29日～31日に京都国際会館にて開催される第17回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会の大会長を拝命いたしました。伝統と革新が息づくこの地・京都で、全国の仲間の皆さまと学びと交流の場を創れることを、大変光栄に感じております。とりわけ開催地に近い近畿支部の皆さまには、ぜひ多くの方にご参加いただき、ともにこの学術大会を盛り上げていただきたいと願っております。

現在、近畿ブロック支部の運営委員20人余りが中心となって実行委員会を立ち上げ、月1回の全体会議の他に、コアメンバーによるコア会議を密に行い、さらにプログラム委員会、運営委員会、広報委員会、テーマ企画委員会の4つの委員会に分かれ、Zoomを駆使しながらそれぞれの委員会で活発な議論を重ねています。おかげさまで、公募企画213題、一般演題910題と、多数の応募をいただき、査読や採否の検討に追われる多忙な日々が続いているますが、これは本学会への期待の大きさの表れであり、学会員の皆さまの熱意に支えられて準備が進んでいることを実感しております。

本大会のテーマは「つながる、つなげる、つなげる、つながる」です。日々の診療の中で培われる現場の知恵や経験を持ち寄り、世代や職種、専門領域、地域の垣根を越えて語り合い、新たな実践へと“つなげていく”。そして、そのつながりが次の世代へと受け継がれ、さらに広がっていくような場をつくりたいと考えています。とりわけ本大会では、学生、若手医師、専攻医、研修医、医学生、そして看護師、薬剤師、リハビリ職、管理栄養士、ソーシャルワーカーなど、多職種の皆さまの参加と発信を心から歓迎しています。次代を担う若い力と、現場を支える多職種の視点こそが、これから のプライマリ・ケアを形づくる原動力です。経験や肩書に関わらず、安心して語り、学び合える「開かれた学術大会」を目指しています。

京都は近畿の皆さまにとってもアクセスしやすい場所です。日常診療の合間に少し足を延ばし、同じ志をもつ仲間と直接顔を合わせ、世代や職種を越えてつながれる貴重な機会になるはずです。ぜひ近畿支部から、そして若手・多職種の皆さまにも多くご参加いただき、ともに学び、ともに語り、ともにつながる時間を共有できました幸いであります。皆さまと会場でお目にかかる日を、実行委員一同、心より楽しみにしております。

## 活動報告： 兵庫県支部主催『Hyogo GP Impact Forum』 開催報告

合田 建（神戸大学医学部附属医学教育推進センター／神戸大学医学部附属病院 総合内科）

2025年10月26日に神戸大学で「兵庫県総合診療医・家庭医の集い」、今年度は『Hyogo GP Impact Forum』と称して約20名の高校生、約30名の医学生を含め全体で70名を超える方が集まる会となりました。①川崎病院／はっぴーの家ろっけん（介護付きシェアハウス）見学、②臨床の追体験ワークショップ、③キャリアワークショップの3部構成でしたが、川崎病院では松島先生が「総合診療医のキャリアについて」高校生・医学生を中心に講義していただき、はっぴーの家ろっけんでは代表者の首藤さん自ら、施設を超え、地域の中での取り組みを紹介してください、とても貴重な機会となりました。長田の街に多様な価値観が触れあうことができる様々な仕掛けがとても魅力的に感じました。

午後からは振り返りワークやグループ内のアイスブレイクを経て、本企画の立案者の橋本麻里奈さん（神戸大学6回生）の今までのキャリアとこれからについてのお話しを通して本企画の想いを、さらに本会にご協力をいただいたGP Impact Hub代表の山地翔太先生（神戸大学卒、現・藤田医科大学）の経験事例を用いたディスカッションを行いました。

県内外の医学生・若手医師が高校生と触れ合うことで、総合診療医のキャリをより具体的に理解するきっかけとなり、高校生や医学生自身の将来も楽しみな会となりました。



過去の兵庫県総合診療医・家庭医の集い(近畿ブロック支部ニュースレターから)

第2回 [81a72cc2bfa97dfb62794ae075b713c4.pdf](#)

第1回 [kinnki\\_12](#)

## 報告： 第38回近畿地方会開催！ アンケート速報

2025年11月30日(日)に第38回日本プライマリ・ケア連合学会近畿地方会(大会長 川島篤志先生)がオンラインで開催されました。参加者の声をまとめました。(n18)

Q あなたにとって今回の地方会の星はいくつでしたでしょうか？



4.56！！

Q 感想、コメントをお願いします。

オンラインの寂しさはあるもののそれを上回る参加しやすさがあり、専攻医にとっての発表のハードルの低さは専攻医の味方だと思います。(医師)

オンライン企画の身体診察、多職種企画に参加しました。様々な地域の多職種の方と交流ができ、それぞれの地域の特徴や課題を知れたり、職種ごとの資格と活動内容を知ることができました。今後多職種で交流、施設見学会、事例検討会などができるれば嬉しく思います。(看護師)

事前に口演発表をすべて閲覧できたために改めて当日に聞き、質問など聞きたい口演を選ぶことができました。自宅の用事がありましたが耳で聞きながらすべて聞きたいものを参加することができました。非常に参加しやすい学会でした。(医師)

全てオンラインの地方会に初めて参加しました。口演発表は事前に動画に取ってあって、スムーズな運営でした。座長をさせていただいたのですが、もう一人の座長の先生ともはじめましてだったので、リアルに会えない分、ZOOMで打ち合わせを行うことが出来て、思いがけない交流となり、とても楽しかったです。ありがとうございました。(看護師)

オンサイト企画に参加しました。川島先生による身体診察の企画は、大変学びの多い内容でした。また、多職種企画では、同じブロック地域内で多くの他職種の方々と出会う貴重な機会をいただき、とても有意義に感じました。オンライン開催の地方会でありながら、このような工夫された企画を実施していただいたことに、心より感謝いたします。さらに、会の準備段階から当日に至るまで、発表者にも参加者にも配慮が行き届いており、全体を通して温かさを感じられる地方会だと感じました。本当にありがとうございました。(薬剤師)

## 個人活動報告： WONCA は道連れ：WONCA World in Lisbon 紀行

石丸 直人(明石医療センター/神戸・明石家庭医療専門医養成プログラム)

WONCA World (2025.9.17-21)がリスボンで開催された。「WONCA に1人で来たんですか?」と聞かれることがある。「はい」と答える私は、今回で5回目(Asia Pacific Region : APRもいれると9回目)の参加になるが、寂しいと感じたWONCAは1つもない。「旅は道連れ、世は情け」というが「WONCA は道連れ」と私は言いたい。

関空からソウル経由でリスボンを目指す往路の機内で席を交換してほしいと声をかけられた夫婦がおられた。要望に応じ、到着後空港の入国審査前の列でその夫婦とタイミングよく再会した。ハングルの勉強法やポルトガルでの旅程など、立ち話をしていたところ、どうやら行き先は同じ WONCA で、会話していた相手はソウルの家庭医 Jae-Ho Lee 教授であったことが判明した。お互いの発表内容について共有し、会場でも道連れとなつた。会場でも、以前お会いした方々、今回出会う方々を含め世界中の家庭医と遭遇し、道連れになる機会があった。様々な視点や知見が得られるとともに、自分たちのやっていることを再確認できる場もある。これだけでも WONCA に参加する価値はあるのではと感じる。

例えば、今回の私の発表は、急性上気道炎の患者におけるトラネキサム酸の咽頭痛に対する効果を検証したTURI 試験に関する報告であった。2年前にシドニー大会で Research Question (RQ) のワークショップがあり、そこで本試験の RQ を共有したところ、興味津々の参加者から質問の嵐と励ましを受け、「これはやらねば」と研究実施の後押しとなった。今回の発表後、海外では、トラネキサム酸は出血にしか用いたことがなく、しかも高価な薬で手に入らないという意見があった。廉価で咽頭痛のみならず美白目的でも用いられることがある本邦の現場とはかなり異なるということに気づかされた。今後の大会はケープタウン開催の後、京都開催に決まったこともあり、発表の後に、WONCA 京都 2029 の宣伝をしたところ、多くの方が日本への興味と関心を示された。

日本からの参加者とも道連れになることが多く、食事や旅をともにすることもある。特に、「JAPAN NIGHT」では貴重な出会いが待っている。今回は、WONCA 京都 2029 も見据えて、Karen Flegg 会長や Anna Stavdal 前会長、Meng-Chih Lee 元 APR 会長も参加され、盛会となつた。

海外の家庭医とのつながりを見つける方、日本の家庭医の現状を海外に紹介したい方、RQ を見つけたい方、Research をさらに膨らませたい方、WONCA で道連れになりませんか。WONCA APR ILOILO(2026.3.25-27)も近日開催されます。

WONCA が何かは、ニュースレターNo.49(2025.9)の朝倉健太郎先生の報告を参照ください。



(写真脚注)

写真左)講演会場：口演会場はどこもいっぱいでしたが、自由に質疑応答できる空間でした。

写真右)リスボンの街と筆者：リスボンは風光明媚な港町でした。タイミングよく遭遇した恩師に撮影いただきました。

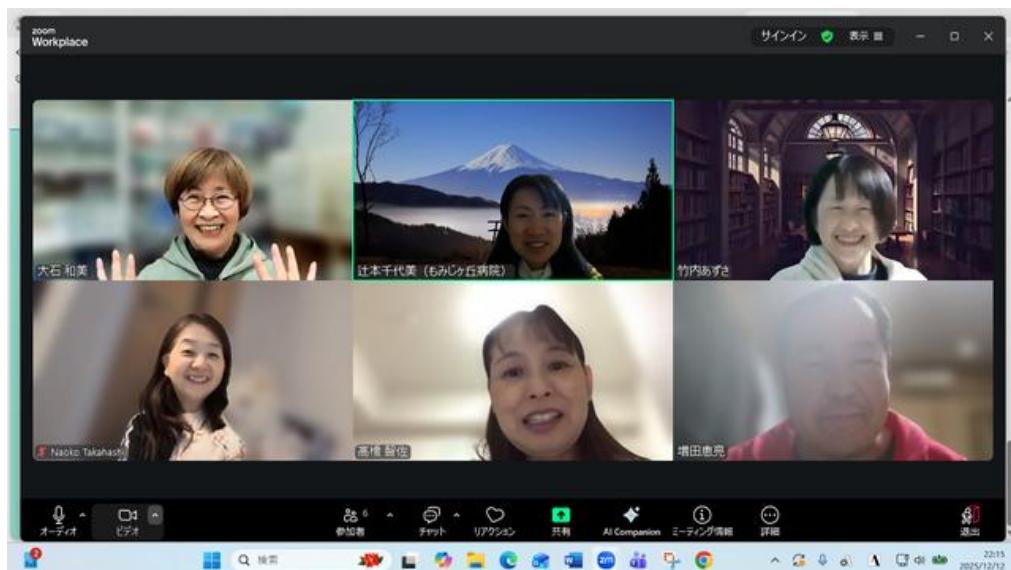
## 活動報告： 第6回 KPCA 薬剤師 WG ミーティング開催

【12月の近畿ブロック薬剤師ミーティングを開催しました】

～～外国人対応ってどうしてる？ 現場の工夫と気づきを共有～～

辻本 千代美(もみじヶ丘病院/福知山市)

12月12日、偶数月恒例の「近畿ブロック薬剤師ミーティング」を開催しました。今回のテーマは、秋季セミナーのキャリアカフェでもご活躍された増田さんによるお話「薬剤師の外国人対応どうしてる？」。その後は、参加者同士でグループトークを行い、現場での工夫や課題を共有しました。増田さんは、外国人の来局が多い薬局を見学された経験から、一般的な薬局との違いについてお話くださいました。たとえば、ツアー客向けにオンライン診療を受け入れていたり、薬局スペースと市販薬スペースを明確に分けていたり、常時中国語対応が可能なスタッフが配置されていたりと、さまざまな工夫がされていたそうです。また、外国人の中には「日本の医療を受けたい」というニーズを持つ方もおられるとのことでした。「外国人対応」と聞くと、つい言語の問題に目が向きがちですが、実際には文化や制度の違いなど、奥深い課題があることに気づかされました。さらに、オロナイン軟膏やロイヒつぼ膏など、意外な商品が人気を集めているという話題もあり、グループトークでは活発な情報交換が行われました。翻訳アプリやイラストを活用した服薬説明など、現場でのさまざまな工夫も共有され、「誰にとってもやさしい薬局」を目指すためのヒントがたくさん詰まったミーティングとなりました。





## アカデミアから

関西医科大学総合診療医学講座 石丸裕康（関西医科大学総合診療医学講座／寝屋川市）

みなさん、こんにちは。関西医科大学総合診療医学講座の石丸です。

私は2021年に、長年勤務してきた天理よろづ相談所病院を辞し、関西医科大学香里病院に赴任しました。きっかけは、「大学を基盤にしながら、地域の現場で総合診療を本気で育てることはできないか」という構想でした。関西医科大学では、もともと附属病院内に総合診療科が設置され、西山順滋先生を中心に診療・教育が展開されてきました。一方で、総合診療医の教育・育成は、大学病院のみ、また地域の現場のみでは課題もあることが指摘されていました。そうした背景の中で、その“間”にある場所として、香里病院と伊賀市をフィールドにした総合診療医学講座が設置されることとなり、縁あって私に声がかかり、挑戦することを決意しました。

現在は尾下寿彦先生と二人体制で、内科と一体化した「内科・総合診療科」のメンバーとして診療と教育を行っています。

日々の臨床は、都市部における総合診療・プライマリ・ケアが中心です。診断未確定の症候、複数疾患を抱える高齢患者、心理社会的背景を含む複雑な問題、そして高度医療を必ずしも必要としない入院患者のケアに日常的に取り組んでいます。

「専門に送る前に、まずここで引き受ける」「生活と医療のあいだを翻訳する」

こうした総合診療の視点で日々の仕事をふりかえると、臨床推論、包括的診療、緩和医療、リハビリ、高齢者医療、SDHといった、総合診療の中核となる課題にこのフィールドでは日常的に直面することを実感します。総合診療医・家庭医・総合内科医の活躍の場として、非常に適した環境だと感じています。

教育においては、本院総合診療科とも協力し、5・6年生の臨床実習に加え、1・2年生のearly exposureである「白衣の日」、さらに3・4年生への総合診療・診断学の講義、また関西医科大学初期研修プログラムで地域医療研修としてローテートする初期研修医教育の中核として、段階的に総合診療教育を広げているところです。

この講座の強みは、関西医科大学附属病院の高度医療、香里病院の都市型・地域密着型診療、そして伊賀市立上野総合市民病院を中心とした地域医療フィールド、これらを一つの教育・研修の流れとして経験できる点にあります。

都市と地域、外来と入院、臨床と教育・研究を行き来しながら、「これから総合診療医に必要な力」を実地で身につけることができます。

これからの医療では、大病院が高度専門医療を集約し、診療所がかかりつけ機能を担う中で、地域の中小病院で総合診療を実践できる医師の価値は、確実に高まります。その現場を、大学という基盤から支え、教育と研究を組み込みながら育っていくこのモデルは、今後ますます重要になると確信しています。

正直に言えば、まだ発展途上の講座です。だからこそ、「完成されたプログラムに乗る」のではなく、「一緒につくる」余地があります。臨床をしっかりやりたい人。教育に関わりたい人。地域医療に軸足を置きつつ、大学ともつながっていきたい人。

そうした専攻医、そして仲間となるスタッフを、いま求めています。

少しでも「ここ、面白そうだな」と感じた方は、ぜひ一度話を聞きに来てください。

このフィールドで、次の総合診療を一緒につくりしていくことを楽しみにしています。

## おしらせ：近畿ブロック研究ミーティングのご案内

長 哲太郎／OCGFP・copeおおさか病院／大阪市

このミーティングでは、プライマリ・ケア領域における研究活動の深化と、若手医師の研究支援に焦点を当てた多岐にわたる議論を行っております。

主なテーマは、\*\*アドバンス・ケア・プランニング(ACP)と患者の関与(ACP Engagement)\*\*に関する研究です。ACP の理解・実践に至る医師の経験プロセスを探る質的研究や、医師の共感性・信頼性が患者の「主治医との話し合いの心構え」に与える影響を検証する量的研究について、活発な議論が行われました。特に、日本の文化的背景(関係的自律)や、患者の独居・親族の看取り経験などが ACPE を高める要因となりうることが示唆されています。また、ACPE スコアが高い患者は、主治医との長年の信頼関係を持つ傾向にあるというデータも共有されています。

その他、医師の研究キャリア形成の課題(時間確保、論文執筆の難しさ、バーンアウト防止)についても話し合い、近畿 PBRN(Practice-Based Research Network)の立ち上げを通じて、互いに学び合い、研究を完遂できる環境の整備を目指したいと思っています。医科歯科連携、経鼻胃管の選択、研究倫理(HARKing/p-hacking の回避)など、臨床現場に根ざした多様なテーマも扱われています。

本ミーティングは、プライマリ・ケアの臨床知と学術知を結びつけ、研究テーマの創出から論文執筆までを多職種で支え合う場です。

「研究をこれから始めたい」「現場の疑問を言語化したい」「異分野の専門家と交流したい」といった熱意をお持ちの、医師、看護師、医療統計家、社会学研究者など、あらゆる背景を持つ皆様の参加を心より歓迎いたします。多角的な視点が、日本のプライマリ・ケア研究を未来へと前進させます。

ミーティングは、奇数月の第四金曜日に実施しており、次回は、2026年1月23日(金)21時から(<https://meet.google.com/pwr-urbi-vsh>)で行っております。

次回のミーティングにご参加いただき、盛り上がってまいりましょう。

## おしらせ：今年度も KONPass をもって、研修を乗り切ろう！

長 哲太郎(copeおおさか病院・OCGFP/大阪市)

近畿ブロックでは、毎年度ごとに、専攻医および指導医向けに研修サポートをする有料サービス(KONPass:Kinki Official Navigation Passport)を用意しています。

<https://konpass2025.peatix.com/view>

パスポート購入者は近畿ブロックのイベント参加、近畿ブロックの教育資料、歴代優秀ポートフォリオへのアクセス、コミュニティの加入、オンライン指導の特典がつきます。年会費は3000円と大変お得な内容になっています。

購入特典：○三大イベント参加・春のスタートアップ(2025年5月24日)・毎月第一木曜日のポートフォリオブラッシュアップ・冬のポートフォリオ発表会(2026年2月11日)(通常は2000円のところ無料に！)○教育動画コンテンツへのアクセス○バーチャル医局を用いたオンライン指導

2025年度も、KONPassを持って、研修の荒波を乗り越えていきましょう！

## おしらせ： 2026年2月11日（水・祝）P-FES 2026 のご案内

竹内 崇(たいしうう生協診療所／大阪市)

9月号でも広報いたしました「第18回近畿家庭医療・総合診療専攻医ポートフォリオ発表会(P-FES:Portfolio festival)」。2026年2月11日(水・建国記念の日)に大阪医科大学にて開催いたします。

昨年度は久しぶりの現地開催となり、直接顔を合わせて学ぶ意義や交流の豊かさが高く評価されました。その声を受け、今年度も現地開催を基本とし、一部オンライン配信を組み合わせたハイブリッド形式で実施します。会場の熱気や双方向の対話を大切にしながら、学びと交流の時間を共に過ごせれば幸いです。

本会では、専攻医/専門医/多職種によるポートフォリオ詳細事例報告の提出と当日の発表をお願いしています。指導医や多職種からの多角的なフィードバックを得られる、またとない機会です。さらに、優秀賞ポートフォリオの発表、特別講師によるレクチャー、交流企画など、多職種で楽しみながら学べる場を準備しています。

今年度は、医療福祉生協連 家庭医療学開発センター センター長・藤沼康樹先生をお迎えし、「『19番目のカルテ』から学ぶ 卓越したジェネラリスト診療のエッセンス」と題して、オンラインにて特別講演をいただきます。今年話題となったドラマ『19番目のカルテ』を題材に、日々の診療に直結するジェネラリストとしての視点や実践のヒントをわかりやすくご教授いただける内容となる予定です。また、可能であれば、ドラマ第1話～第6話を事前に視聴いただくと、より理解が深まり、講演を一層楽しんでいただけると思われます。



### 【発表者募集】

- 対象:JPCA近畿ブロック専攻医／全国の多職種
- 登録期間:2025年11月4日(火)～12月5日(金)
- ポートフォリオ事例報告提出:2025年12月25日(木)
- ホームページは右 QR コードをご参照ください。

### 【聴講参加】

- 受付開始:2025年12月17日(水)Peatixにて
- オンライン視聴は一部会場に限られます。

なお、本会は日本プライマリ・ケア連合学会の単位取得が可能です。託児所の利用も可能ですので、ご希望の方は後日送信する登録フォームよりお申し込みください。

専攻医だけでなく、指導医の先生方も日程をご確保いただき、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



## おしらせ：「ポートフォリオブラッシュアップ（P—BUS）会」参加のお願い

長 哲太郎／OCGFP・コーポおおさか病院／大阪市

毎月第1木曜日に開催している「ポートフォリオブラッシュアップ」は、家庭医療専門医を目指す上で不可欠な深い学びと内省を促進する、心理的安全性の高い場です。この場は、KONPassを購入された方だけへの特典企画になっています。

### <これまでの主な検討内容と成果>

- 困難事例の深掘り：強い訴えやハラスマント的な言動を持つ患者への対応として、「プロフェッショナリズム」や「患者中心の医療」の観点から、医療者の陰性感情のマネジメントや診察時の沈黙の重要性など、信頼関係構築の具体的な工夫について深く議論しました。
- 学習とキャリア戦略：AI(NoteLMなど)を活用した読書のアウトプット(ポッドキャスト化)など、AI時代における「問い合わせ方」と教養の習得戦略について意見交換を行いました。
- 活動の継続と意義：PFS(ポートフォリオ発表会)への参加状況の確認や、本会を継続することで「心理的安全性」のある議論の場を確立していくことを大事にしています。
- ・

### <この会に参加するメリット>

- 専攻医の方へ：困難事例をポートフォリオのテーマ(例：「プロフェッショナリズム」や「未分化な健康問題」など)に落としこみ、完成度を高めるための具体的な視点と助言を得ることができます。
- 指導医の方へ：若手の抱えるリアルな悩みを把握し、効果的なフィードバックや指導法について学びを深める機会となります。また、自身のキャリアや学びの戦略を再考できます。

次回は 2026年1月8日(木)21時から1時間弱

ポートフォリオ提出に向けて、そして日々の診療の質を高めるための学びの場として、KONPassご購入の上、皆様の継続的なご参加を心よりお待ちしております。継続こそが、ブレイクスルーを生み出す力です。

## その他：

### ●近畿ブロックのレジェンドたちのライフヒストリー＆感動秘話

#1 石丸裕康先生

#2 木戸友幸先生

#3 中山(畔田)明子先生

#4 雨森正記先生

#5 鈴木富雄先生

#6 松井善典先生

#7 竹中裕昭先生

#8 三澤美和先生

#9 専門研修をはじめたばかりの3人の専攻医

#10 吉本清巳先生、および第35回近畿地方会の実行委員会のみなさま

#11 大島民旗先生、川島篤志先生、稻岡雄太先生(第36回近畿地方会大会長他)

#12 武田以知郎先生

#13 廣西昌也先生、梶本賀義先生(第37回近畿地方会大会長、実行委員長)

#14 角田秀樹先生

#15 宮澤洋平先生

#16 合田 建先生



HYPERLINK

<https://podcasts.apple.com/gb/podcast/legend-of-gp-in-kpca/id1583573369>

今後も続々と配信予定です。乞うご期待！！

### ライフヒストリー＆感動秘話

#### ----- LEGEND of GP in KPCA -----

日本プライマリ・ケア連合学会、近畿ブロックに所属、近畿で活躍するプライマリ・ケアプロバイダーたちをゲストにお招きし、これまでの変遷、今現場で感じていること、そして、未来に向けて、ざくばらんなトークを繰り広げることで、近畿ブロックのみならず、日本全国のプライマリ・ケアに従事する方々に「元気」と「勇気」を持ってもらう番組です。

<https://podcasters.spotify.com/pod/show/kpca>

### ニュースレター編集委員大募集！！

朝倉 健太郎(大福診療所／桜井市)

近畿ブロック ニュースレター編集部では、近畿ブロック支部や各府県支部の取り組み、会員のみなさまの近況などを中心に編集作業に取り組んできました。

3ヶ月毎、年4回の発行を行っており、本誌2025年冬号は50号にあたります。

引き続き、様々な立場、役割を担っている会員のみなさまの活動を幅広く取り上げていくことができればと考えております。

ニュースレターの編集にご興味のある方、一緒に面白い記事を作成してみようかなと思った方は、編集部 [kentaroasakura@gmail.com](mailto:kentaroasakura@gmail.com) 朝倉までご一報下さい..

[支部からのご連絡] **ブロック支部活動について皆様からのご意見やご提案をお待ちしております！**

**近畿ブロック支部・各府県支部・公認グループ活動のホームページが更新されました！**

<http://www.primary-care.or.jp/primarycare-kinki/> 是非、アクセスしてみて下さい。

(学会トップページ <http://www.primary-care.or.jp> 上部メニュー「講演会・支部活動」から)

→ 詳細は、上記ホームページをご参照願います。

ホームページ担当：梶原信之

## 編集後記

早いもので、今年も残すところわずかとなりました。

12月号をお届けする頃、皆さまそれぞれの現場で一年を振り返っておられることと思います。

近畿ブロックでは、本年も多職種・多領域による実践が共有され、地域に根ざしたプライマリ・ケアの力を改めて感じる一年となりました。日常の小さな工夫や対話が、確かな支えとなっていることを学ばせていただいています。

来る年も、学び合い、つながり続ける場として、このニュースレターがお役に立てば幸いです。

どうぞ良い年末年始をお迎えください。(担当 T)